

平成27年度 教科に関する研究

研究主題

学習指導上の課題を踏まえた，児童生徒の  
学びの充実を図る授業づくり

## 体育・保健体育

豊かなスポーツライフのための基礎的な力を育てる体育・  
保健体育科授業づくり

—球技（ベースボール型）の系統的な学習過程の工夫を通  
して—



# 目 次

I 主題について	1
II 授業研究	
【授業研究 1】 小学校第 4 学年「ゲーム（ベースボール型ゲーム）」における豊かなスポーツライフの ための基礎的な力を育てる体育科授業づくり	4
【授業研究 2】 中学校第 2 学年「球技（ベースボール型）」における豊かなスポーツライフのための基 礎的な力を育てる保健体育科授業づくり	12
【授業研究 3】 高等学校第 3 学年「球技（ベースボール型）」における豊かなスポーツライフのための 基礎的な力を育てる保健体育科授業づくり	20
III 研究のまとめ	28

## 体育・保健体育科研究主題

豊かなスポーツライフのための基礎的な力を育てる体育・保健体育科授業づくり

一球技（ベースボール型）の系統的な学習過程の工夫を通して一

### I 主題について

#### 1 体育・保健体育科における学習指導上の課題について

体育・保健体育科では、小学校から高等学校の授業を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成が目標となっている。

平成25年度文部科学白書（平成26年8月，文部科学省）では，成人の週1回以上のスポーツ実施率は，昭和63年の26.4%から平成24年度時点で47.5%まで上昇しているが，世代別に見ると，20代から40代で実施率が低いとされている。また，平成26年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査結果報告書（平成26年11月，文部科学省）では，卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合は，小学校第5学年の男子で73.9%，女子で62.3%，中学校第2学年の男子で66.4%，女子で50.8%であった。本県については，小学校の男子で75.1%，女子で67.1%，中学校の男子で66.0%，女子で49.2%となっており，全国，本県ともに卒業後に自主的に運動をする意欲は，小学校よりも中学校で低下している。このことから，生涯を通じて運動を継続する意欲を高める体育・保健体育の授業の工夫が求められる。

また同報告書では，体育・保健体育の授業において，運動やスポーツがきれいな生徒の多くは，各領域の運動がうまく実践できなかったことを理由としている。これは，基礎的・基本的な技能や知識の習得が十分行われなまま，活用に進んでいる学習過程に原因があると考えられる。

そこで，本研究では，学習指導要領体育・保健体育科の改善の基本方針(イ)より，生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成するための基礎的な力として身体能力（技能及び体力），コミュニケーション能力，論理的思考力に着目する。そして，筋道を立てて練習や作戦を考え，改善の内容を話し合う活動を通して，論理的思考力を高め，集団的活動を通してコミュニケーション能力を高める。さらに，練習やゲームの中でこれらの能力を活用することで身体能力が高まり，豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成するための基礎的な力を育てられると考える。このような基礎的な力を育てる系統的な学習活動の工夫を行うことが，基礎的・基本的な技能や知識の習得につながり，卒業後に運動を継続する意欲が高まると考え主題を設定した。

#### 2 学びの充実を図る授業づくりについて

本研究における学びの充実を図るとは，基礎的な力を育てる系統的な学習活動の工夫をすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，意欲的に運動に取り組むようになると考え，以下に示すア，イの2点を具体的な手立てとした授業研究を行う。

ア 身体能力を系統的に整理し，具体的に示した身体能力シートの作成と活用

小学校においてはゲーム（ベースボール型ゲーム），中学校，高等学校において

は球技（ベースボール型）を取り上げ、各校種の学習指導要領解説の内容と研究協力員の所属校における児童生徒の実態から、身に付けるべき身体能力を系統的に示した身体能力シートを作成する。この身体能力シートを基に、バット操作やボール操作を練習し、それをゲームの中で活用する系統的な学習活動を行うことで、身に付けさせたい具体的な技能の習得を図る。表1（p. 3）は作成した身体能力シートである。

イ 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

系統的な学習活動の中で、バット操作、ボール操作に関する課題を児童生徒が自ら解決するために、論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する工夫をすることで、身体能力の向上を図る。

表 1

## ゲーム「ベースボール型ゲーム」、球技「ベースボール型」における身体能力シート

校種	学年	学習指導要領の内容		身に付けさせたい具体的な技能内容		プレー上の制限
		指導内容の系統性	指導内容（技能）	バット操作 （バッティング）	ボール操作 （フィールディング）	
小学校	第3・4学年	運動の基礎を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>蹴る、打つ、捕る、投げる</li> <li>手やラケット、柔らかい（軽い）バット</li> <li>止まったボール</li> <li>向かってくるボールの正面に入る</li> <li>ベースに向かって走り、かけ抜ける</li> <li>攻撃や守備を交代するなどの易しいゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止まったボールを打つことができる</li> <li>トスに合わせて打つことができる</li> <li>柔らかいボールを使ってトスに合わせて打つことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転がってきたボールを止めることができる</li> <li>転がってきたボールを捕球することができる</li> <li>山なりのボールを捕球することができる</li> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース方向に送球することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内野のみでゲームを行う</li> <li>味方がピッチャー</li> <li>外野なし</li> <li>野手が捕球、または一塁手がボールに触れた時点でアウト、セーフの判定</li> </ul>
	第5・6学年		<ul style="list-style-type: none"> <li>打つ、捕る、投げる</li> <li>止まったボール、易しく投げられたボール</li> <li>走塁、捕球、送球しながら攻守を交代するゲーム</li> <li>得点をとるための出塁と進塁</li> <li>チームとして守備の隊形をとってアウトにする</li> <li>イニング終了の仕方を工夫し攻守交代が繰り返し行えるような簡易化されたゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10～12m離れたマウンドから投げたボールを打つことができる</li> <li>10～12m離れたマウンドから投げたボールをヒットにすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース方向に送球することができる</li> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース上の味方に送球することができる</li> <li>外野に飛んだボールを捕球することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打者の技能に応じて、ピッチャーの位置を変え、ゲームを行う</li> <li>スローピッチ</li> <li>味方がピッチャー</li> <li>相手がピッチャー</li> <li>※練習をこちらで仕組み、それを生かせるゲーム</li> <li>攻撃する時は、アウトカウントに関係なく打者はチーム人数の半分までとし、次回攻撃時に塁者は継続する、外野を抜けたら二塁打とする</li> </ul>
中学校	第1・2学年	多くの領域の学習を経験する	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なバット操作 バットの握り方（グリップ）、構え、体重移動（踏み込み）、バットの振り方（テイクバック、スウィング）、ボールのとらえ方（インパクト）、ボールをとらえた後の操作（フォロースルー）</li> <li>走塁 全力で塁を駆け抜ける、ボールを持たないときの動き</li> <li>ボール操作 ボールを投げる前の構え、打球コースやボールの落下地点への移動の仕方（ステップ）、基本となるグラブの使い方（キャッチング）、ボールの握り方や投げ方（スローイング）、ゴロやフライを捕りねらった方向に投げる、ボールを投げた後の身体操作（フォロースルー）、味方からの送球を受ける</li> <li>定位置での守備 ボールを持たないときの動き（決められた位置に繰り返したったり準備姿勢で構える）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12～13m離れたマウンドから投げたボールを打つことができる</li> <li>12～13m離れたマウンドから投げたボールをヒットにすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース方向に送球することができる</li> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース上の味方に送球することができる</li> <li>外野に飛んだボールを捕球することができる</li> <li>外野に飛んだボールを地面に着く前に捕球することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規のルールで行う</li> <li>味方がピッチャー</li> <li>相手がピッチャー</li> </ul>
	第3学年	卒業後少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定したバット操作 打球のコースや高さなどの変化に対応してボールを打ち返す</li> <li>走塁 スピードを落とさずに円を描くように塁間を走り進塁をねらう動き</li> <li>ボール操作 移動しながらボールを捕る、一連の動きでねらった方向へボールを投げる、送球を塁上でタイミングよく受ける、送球を中継する</li> <li>連携した守備 ボールを持たないときの動き（相手チームの出塁・進塁・得点を防ぐための中継プレーに備える動き、ダブルプレーに備える動き）</li> <li>状況に応じたバット操作（打球のスピードの変化や走者の位置に対応してヒットの出やすい空いた場所にボールを打ち返したりバントしたりする）</li> <li>攻撃にかかわるボールを持たないときの動き 走塁（打球や守備の状況、進塁のコントロールやタイミング）</li> <li>ボール操作 安定したボール操作（打球の方向やゴロやフライなどの種類に対応してボールを捕る、仲間が捕球しやすいボールを投げたり仲間からの送球を中継する、打球ではねらったコースに投げる）</li> <li>守備にかかわるボールを持たないときの動き 状況に応じた守備（相手打者の特徴に応じた守備位置、バックアップ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13～14m離れたマウンドから投げたボールを打つことができる</li> <li>13～14m離れたマウンドから投げたボールをヒット、またはねらったところに打つことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内野に転がってきたボールを捕球し、一塁ベース上の味方に送球することができる</li> <li>外野に飛んだボールを地面に着く前に捕球することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規のルールで行う</li> <li>チームで課題に応じた練習をすることができる</li> <li>味方・相手の戦力分析をすることができる</li> </ul>
高等学校	第2・3学年					

## II 授業研究

### 【授業研究1】

小学校第4学年「ゲーム（ベースボール型ゲーム）」における豊かなスポーツライフのための基礎的な力を育てる体育科授業づくり

#### 1 単元名 ゲーム「ベースボール型ゲーム」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 単元の目標

- ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをできるようにする。 (技能)
- 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (態度)
- 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。 (思考・判断)

##### (2) 観点別評価規準（学習活動に即した評価規準）◎は十分に満足できる状況

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
①練習やゲームに◎ <u>自ら進んで</u> 取り組みようとしている。 ②◎ <u>積極的に</u> 仲間への励ましやアドバイスをし、協力しようとしている。 ③規則を守り、勝敗の結果を◎ <u>素直に</u> 受け入れようとしている。	①課題に応じて自分のめあてを見付け◎ <u>修正</u> している。 ②状況に応じて打つ方法や守備の位置を◎ <u>自ら</u> 選んでいる。	①投げる手と反対の足を踏み出して、ボールを◎ <u>繰り返し</u> 投げるができる。 ②向かってくるボールの正面に移動して◎ <u>安定して</u> 捕球することができる。 ③ボールをフェアグラウンド内に◎ <u>安定して</u> 打つことができる。

#### 3 単元の指導について

##### (1) 教材について

ベースボール型ゲームは、ボールを蹴る、打つなどして攻撃をしたり、捕る、投げるなどの守備をしたりして、攻守を交代して行うゲームである。また、走塁して得点がとれるように工夫して行うゲームである。

本単元では、小学校5・6年生や中学校以降のベースボール型につなげていくための基礎段階として、打つ、捕る、投げるなどの基本的な技能を身に付けさせる。野球やソフトボールはルールが複雑なため、児童が基本的なゲームの流れを理解しやすいようにルールを簡素化する。また、グループでの練習やゲームをする時に、

I C Tや分かりやすい掲示物を用いて、お互いの動きを見ながら話し合い、楽しみながら活動できるようにしていきたい。

## (2) 児童の実態について

本学級の児童は、休み時間も外で積極的に遊ぶ。しかし、ベースボール型の球技である野球やソフトボールについては、ルール等の知識がない児童が多い。表1は、単元前の「体育授業に関する意識調査」の結果である。

表1 体育授業に関する意識調査（平成27年7月3日実施 調査人数21人 男子9人 女子12人）（単位：人）

	項 目	よくあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	ゲームでうまくいかなかったことから、自分の課題（めあて）を見付けていますか。	6	10	0	5	0
2	うまくなるためのポイントを自分で考えていますか。	5	13	0	3	0
3	分からないことやできないことを友達や先生に聞いていますか。	7	10	0	4	0
4	うまくなるためのポイントを友達に伝えていますか。	1	10	0	9	1
5	できなかったことができるようになったことはありますか。	14	5	0	1	1
6	練習したことがゲームの中でできるようになったことがありますか。	8	12	0	0	1
7	運動は楽しいですか。	16	5	0	0	0
8	運動を進んで行ってみたいと思いますか。	14	4	0	2	1
9	学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。	9	8	1	2	1

項目7の「運動は楽しいですか。」に対し、全員が「よくあてはまる」または「あてはまる」と回答している。さらに、項目8の「運動を進んで行ってみたいと思いますか。」の質問では、「よくあてはまる」または「あてはまる」と18人が回答している。しかし、項目4の「うまくなるためのポイントを友達に伝えていますか。」では、「よくあてはまる」と答えた児童が一人だけであった。また、「あまりあてはまらない」と答えた児童が9人おり、自信をもってポイントを友達に伝えられないことが課題である。

## (3) 主題に迫る具体的な手立て

ア 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの活用

打つ動きや捕る及び投げる動きなど、基本的な技能を習得し、ゲームの中で活用できるようにするため、小学校において身に付けるべき身体能力を系統的に示した身体能力シート（p. 3）を作成し、それを基に学習活動を行う。

打つ動きの基本的な技能の習得や打つ楽しさを多くの児童に味わわせるために、打撃面が広いバットで、止まっているボールを打つようにし、ボールがバットに当たる機会が多くなるようにする。また、児童がボールを扱う際の不安を和らげるため、ボールを打つときは柔らかいボールを使用する。

捕る、投げる動きの基本的な技能の習得や、周りを見ながら動く状況判断力の向上を図るため、ビブスや投げやすい軽いボール等を使い、捕る、投げる練習が容易にできるようにする。また、グループ活動での鬼ごっこやボール回し、2、3人でのゴロキャッチにおいて、ボール等を持つ人、持たない人など、それぞれの役割を理解し、周りを見ながら動く状況判断力が身に付くような学習活動の工夫をする。さらに、身に付けた技能をゲームの中で活用できるように、簡単なル

ールでゲームを行い、児童が混乱しないようにしていく。

#### イ 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

児童が、バッティングフォームや投げる動作、守備のこつなどを授業後に振り返ることができるように、ポイントが確認できる資料を学習カードに貼り付ける。

また、次時につながるようにするため、拡大した同じ資料を教室内にも掲示し、常に資料を見て、動きのポイントが確認できるようにする。

さらに、互いの動きを見合ったり、動きのポイントを教え合ったりすることができるように、デジタルカメラを1グループで2台使い、ローテーション・トスバッティングを行う。全員が交代しながら撮影し、動きのポイントを振り返るための時間を設定することで、学び合い活動が展開できるようにする。

これらの活動を通して、運動を継続していく意識の高まりにもつながるようにする。

### 4 単元の指導計画（8時間扱い）

	時	学習内容・活動	関	思	技	観点別評価規準
はじめ	1	○ オリエンテーション	②			<ul style="list-style-type: none"> <li>・◎積極的に仲間への励ましやアドバイスをし、協力しようとしている。(関心②)</li> </ul>
		1 学習の流れを確認 2 チーム分けの発表とチームの役割分担 3 ルールやマナー 4 基本の動きの確認 ・打つ、捕る、投げる 5 バッティングのチェック				
なか	2	1 準備	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習やゲームに◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心①)</li> </ul>
		2 本時のねらいを確認 3 準備運動、ストレッチ 4 主運動につながる動き（ビブス鬼ごっこ） 5 基本の動きのドリル練習 ・打つ：ティーに置いたボールや、ぶら下がったボールを打つ ・捕る：2，3人組 ゴロキャッチ ・投げる：三角パス，グループパス				
	3	6 「アウト・セーフ」ゲーム	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に応じて自分のめあてを見付け◎修正している。(思考①)</li> </ul>
		・三角ベース，一塁はダブルベース ・ピッチャーは味方 ・守備は捕球したら「アウト」，打者は一塁を踏んだら「セーフ」と言う				
4	・内野を越えたらヒット ・ホームランあり ・内野の手前の線を越えなければアウト ・内野は打者が一塁に行く前に止めて捕れば				<ul style="list-style-type: none"> <li>・投げる手と反対の足を踏み出して，ボールを◎繰り返し投げるができる。(技能①)</li> </ul>	



		アウト			
		7 後片付け, 整理運動, 反省, 次時の確認			
な か 2	5	1 準備		②	・向かってくるボールの正面に移動して◎ <u>安定して</u> 捕球することができる。 (技能②)
		2 本時のねらいの確認			
	3 準備運動, ストレッチ				
6	4 主運動につながる動き (ビブス鬼ごっこ)		③	・ボールをフェアグラウンド内に◎ <u>安定して</u> 打つことができる。 (技能③)	
	5 基本の動きのドリル練習				
7	・打つ: ティーに置いたボールや, ぶら下がったボールを打つ		②	・状況に応じて打つ方法や守備の位置を◎ <u>自ら</u> 選んでいる。 (思考②)	
	・捕る: 2, 3人組 ゴロキャッチ				
	6	・投げる: 三角ベース, グループベース			
	6	「内野」ゲーム			
		・三角ベース, 一塁はダブルベース			
		○ルール			
		ピッチャーは味方, 内野を越えたらヒット, ホームランあり, 内野の手前の線を越えなければアウト, 内野は打者が次の塁 (一・二塁) に到達する前にボールを止めて, その塁上の味方に投げ, ボールに触ればアウト			
	7	7 後片付け, 整理運動, 反省, 次時の確認			
ま と め	8	1 準備	③		・規則を守り, 勝敗の結果を◎ <u>素直に</u> 受け入れようとしている。 (関心③)
		2 本時のねらいの確認			
		3 準備運動, ストレッチ			
		4 チーム練習			
		5 「内野」ゲーム			
		6 後片付け, 整理運動, 反省, 次時の確認			

## 5 本時の指導 (2/8時間)

### (1) 目標

◎ 練習やゲームに自ら進んで取り組むことができる。

(運動への関心・意欲・態度)

### (2) 準備・資料

バット, ソフトフォームボール, ビブス, カラーコーン, 牛乳パック, デジタルカメラ, カラーリング, 足形, フラフープ

### (3) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価の観点と方法
は じ	1 整列・あいさつ・健康観察をする。	・整列・あいさつを行い, 児童の健康状態を確認する。 ・本時のねらいと学習の流れを確認する。グループで活動を行い, 打つ, 捕る, 投げる練習やゲームを友達と
	2 本時のねらいを確認する。 ゲームができるように, 練習を進んでしよう。	

め 5 分	3 準備運動をする。 ・準備体操，ペアストレッチ	一緒に考えて行うことを伝える。 ・肩，手首，体幹，脚と全身を使うので，よく体を動かすよう指示する。ストレッチでは，どこの部分を伸ばしているかを意識できるように声かけをする。
な か 35 分	4 ビブス鬼ごっこをする。 ○ルール ビブスを渡して，鬼にタッチされないようにする。30秒から1分で合図を出し，鬼役の児童も順番に代わっていく。 5 基本の動きのドリル練習をする。 ・打つ：「素振り」 バットの持ち方に注意して打つ。 ・捕る：「ゴロキャッチ」 2，3人組で，腰を落として転がってきたボールを捕る。捕るときには，「パッ，クン」と言っ て，両手でしっかりと捕る。 ・投げる：「グループパス」 グループで丸くなって，時計回りまたは反時計 回りに，ボールを回す。 6 「アウト・セーフ」ゲームをする。 ・三角ベースをする。一塁はダブルベースとする。 ○ルール ピッチャーは味方が行う。守備は捕球したら 「アウト」，打者は一塁を踏んだら「セーフ」 と言う。 内野ゾーンを越えたらヒットとする。ホームランあり。内野の手前の線を越えなければ アウトとする。内野は打者が一塁に行く前に 止めて捕ればアウトとする。 グループ内で，打者→動作確認→撮影者→守 備→トス役の順にローテーションしながら練 習を行う。	・ルールを理解して，グループで協力して行うように指 示する。動きが消極的なグループには，鬼役の児童を 中心に活発に動けるような声かけをする。 ・以下の点に注意して活動できるように助言する。 「素振り」では，周囲に人がいないことを確認して， バットを振るよう に指導する。バットの握り方を確認 する。ボールをよく見て，しっかりと振り切り，打ち 終わった後も，バットを投げないように指導する。 「ゴロキャッチ」では，腰を落として構えるように指 導する。投げる手と反対側の手を足の間に伸ばすよう に指導する。捕球の際，声を出し，投げる手をボール の上からかぶせるようにして捕らせるようにする。 「グループパス」では，相手の胸をめがけて捕りやす いボールを投げる。向きを変えて，相手に正確に投げ るよう に指導する。 ・ルールが分からない児童には，ゲームの説明を行い掲 示物や児童説明から理解を促す。 ・打者一巡での攻守交代や得点の付け方など，ゲーム中 に混乱が予想されることについて適切に助言をする。 ・バットを投げないように，バットを置くためのゾーン を示し，打ち終わった後はそこに置いてから走るよう に指示する。 ・打者，走者と守備者がぶつからないように，打球を捕 る際は，お互いに注意し合うように声をかけ指導する。 ・打っている様子を動画撮影し，打つポイントを確認で きるようにする。 練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 【運動への関心・意欲・態度①】（観察）
ま と め 5 分	7 片付け，整列，整理運動，健康観察をする。 8 本時の振り返りをする。 9 あいさつをする。	・グループで協力しながら，児童が自主的に後片付けが できるよう支援する。 ・振り返りを行い，次時の活動内容を伝える。打つ，捕 る，投げることの課題が分かり，次回の練習で意識し てできるように確認をする。

## 6 授業の実際

### (1) 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの作成と活用

小学校第4学年において身に付けさせたいバット操作、ボール操作の練習をするため、身体能力を系統的に分類した身体能力シートを基に、学習活動を行った。学習内容を明確にすることで、児童は、「できるようになった」等の達成感を味わうことができ、技能の習得が十分に図れたと考える。

打つ動きの練習では、バットを何種類か用意した。その中で打撃面が広い、やや短めのプラスチック製バットを使うと、バットがボールに当たる機会が多かった。児童は、バットの打撃面が広いことから、バットをボールに当てやすく、打ちやすいと感じ、楽しく学習活動を行えたと考える。また、止まっているボールを打つようにしたため、打つ動きの練習を数多くできたと考える。

ボールについては、ボールを扱うことへの児童の不安を和らげるため、ウレタン製のボールを使用した。打球の勢いが抑えられ、ある程度の飛距離も出たため、不安なく打つ動きの練習ができたと考える。

捕る、投げるの動きの練習として、ビブスを投げながら鬼ごっこする「ビブス鬼ごっこ」を行った。資料1は「ビブス鬼ごっこ」の様子である。鬼役の児童は、ビブスを持っていない子にしかタッチできない。他の児童は、鬼役の児童に捕まりそうになると、児童同士でビブスを捕ったり、パスしたりするなど、捕る、投げるの動作を繰り返し行うため、基本的な技能の習得に有効な手立てであると考え。同様に、グループ全員で行うボール回しや2、3人でのゴロキャッチにおいても、ボールを使って捕る、投げるの動作を繰り返し行うため、より実践的な技能の習得につながったと考える。また、これらの練習では、ボール等を持つ児童、持たない児童がおり、状況を判断しながら、ビブスやボールを捕ったり投げたりするため、それぞれの役割を理解し、周りを見ながら動く状況判断力が身に付いたと考える。

ゲームは、三角ベースで行った。「アウト・セーフ」ゲームでは、捕球の「アウト」、塁を踏んだ時の「セーフ」のどちらを早く言ったかで判定をした。また、「内野」ゲームでは、まだ捕球の技能が安定しないため、塁にいる守備者が投げたボールに触れば捕球したとみなし、アウトかセーフの判定を行った。このようにルールを簡素化することで、児童も混乱することなくスムーズにゲームを進め、楽しむことができた。

### (2) 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

資料2 (p.10) は「学習カード」である。バッティングフォームや投げる動作、守備のこつなど、ポイントが確認できる資料を学習カードに貼り、毎時間振り返ることができるようにしたため、学習活動の中でポイントを意識しながら練習することができた。また、拡大した同じ資料を教室内に掲示し、児童が常に動きのポイントを確認することができたため、自分の動きを見直す機会が得られ、効果があった



と考える。

ICTを活用し、積極的に学び合い活動ができるようにするため、ローテーション・トスバッティングにおいて、デジタルカメラを1グループで2台使い、全員が交代しながら動画を撮影し、時間を設定して、動きのポイントを振り返ることができるようにした。これにより、児童は、互いの動きを見合ったり、動きのポイントを教え合ったりするなど、活発に意見交換をする様子が見え、有効な手立てとなったと考える。

これらの活動を通して、運動を継続していく意識の高まりにもつながったと考える。

### (3) 児童の変容について

#### ア 事前、事後の「体育授業に関する意識調査」より

図1は、事前、事後の「体育授業に関する意識調査」の結果である。

表1 (p. 5) で示した9つの質問を、「論理的思考力」、「コミュニケーション」、「技能」、「意欲」、「卒業後の意欲」の5つの項目に分け、事前、事後で比較した。その結果、「論理的思考力」、「コミュニケーション」、「技能」、「卒業後の意欲」の項目で事前より事後のほうが「よくあてはまる」または「あてはまる」と答えた人数が増えた。バッティングや投げる動作、守備のこつを示した資料を学習カードに貼り、児童が常にポイントを確認したり、ICTを活用し、学び合い活動を通して動きのポイントを確認し合ったりすることで、基本的な技能の習得を図ることができることにつながるるとともに、論理的思考力を活用し身体能力を高めることにつながったと考える。

#### イ 形成的授業評価より

図2 (p. 11) は、高橋健夫が提唱している「形成的授業評価」の評価の手法を用いて授業を分析した結果である。すべての項目で同じような推移を示している。

#### 資料2「学習カード」の資料

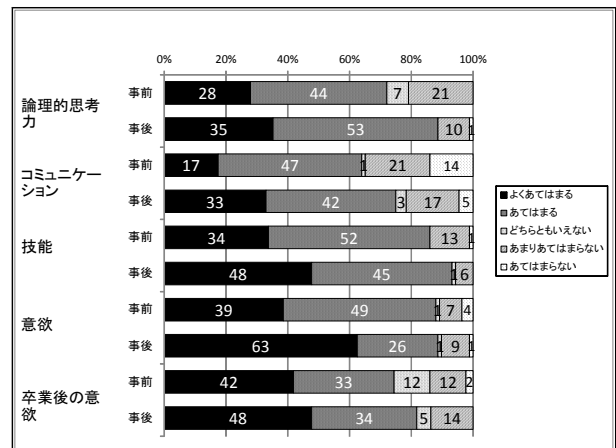
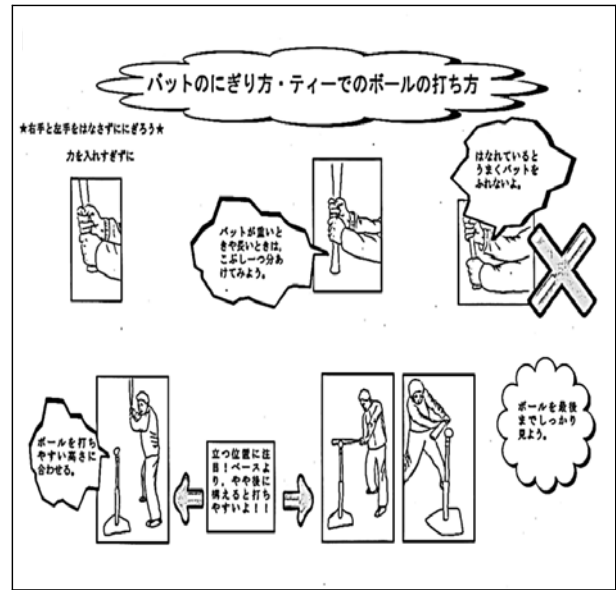


図1 事前、事後の「体育授業に関する意識調査」(事前：平成27年7月3日実施 調査人数21人 男子9人 女子12人、事後：平成27年9月18日実施 調査人数21人 男子9人 女子12人)

「関心・意欲」，「協力」の2項目の値は毎時間上位で推移していた。第3時では，長期休業をはさんでの授業であり，再度内容を確認しながら行ったため，全ての項目において値が下がったと考える。また，第6時では，ゲームのルール・安全面の確認など，マネジメントに費やした時間が他よりも長かったため，値が下がったと考える。単元の前半と後半は，全体の得点が2.7前後の高い値を示している。これは，試しのゲームなど，学習内容の難易度が増したためであり，授業を重ね，手立てを講じていくことで，身体能力の向上が図られたと考える。

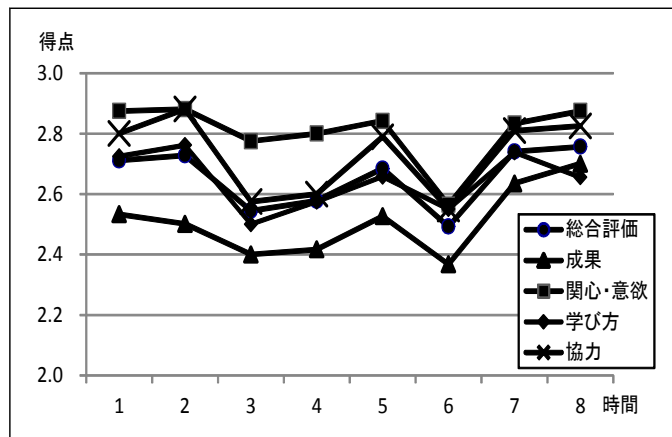


図2 形成的授業評価の推移 (平成27年7月3日から9月18日実施 調査人数21人)

## 7 成果と課題

### (1) 成果

身体能力シートを基にした学習活動では，学習内容が明確になっているため，基本的な技能を習得し，「できるようになった」という達成感を味わわせることができた。また，学習カードやICTを使うことにより，児童が考えたり工夫したりする場面が多くなり，論理的思考力とコミュニケーション能力を活用し，身体能力を高めることにつながったと考える。これらの活動から，児童が自らの成長を実感し，卒業後も運動を継続していく意識の高まりにもつながったと考える。

### (2) 課題

単元途中では，形成的授業評価の値の低下が見られた。また，単元の意欲に伸びが見られなかった。教師の的確な指導や助言，グループ内での活動に対する援助なども検討していく必要がある。

【授業研究 2】

中学校第2学年「球技（ベースボール型）」における豊かなスポーツライフのための基礎的な力を育てる保健体育科授業づくり

1 単元名 球技「ベースボール型」

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

- ベースボール型では，基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができるようにする。 (技能)
- 球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，作戦などについての話し合いに参加しようとするようにする。 (態度)
- 球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。  
(知識，思考，判断)

(2) 観点別評価規準（学習活動に即した評価規準）◎は十分満足できる状況

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
①球技の学習に◎ <b>積極的に</b> 取り組もうとしている。	①バット操作の技能のポイントを◎ <b>的確に</b> 見付けている。	①正しいグリップでバットを構え，タイミングを合わせて水平に◎ <b>安定した</b> スイングができる。	①球技（ベースボール型）の特性や成り立ちについて，学習した具体例を◎ <b>常に</b> 挙げている。
②フェアなプレイを◎ <b>常に</b> 守ろうとしている。	②ボール操作の技能のポイントを◎ <b>的確に</b> 見付けている。	②◎ <b>繰り返し</b> 正面に動いて捕球したり，ステップを踏んで送球したりできる。	②技術の名称や行い方について，学習した具体例を◎ <b>常に</b> 挙げている。
③◎ <b>自ら進んで</b> 分担した役割を果たそうとしている。	③ボールを持たないときの動き方のポイントを◎ <b>的確に</b> 見付けている。	③◎ <b>繰り返し</b> 守備位置に戻り準備姿勢をとったり，ベースカバーの動きをしたりできる。	③練習方法や試合の仕方について具体例を◎ <b>常に</b> 挙げている。

3 単元の指導について

(1) 教材について

ベースボール型の球技は，身体やバットの操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し，一定の回数内で得点を競い合うゲームである。中学校第2学年では，攻撃を重視して，易しい投球を打ち返したり，

定位置で守ったりする攻防を展開できるようにする。本単元では、基本的なバット操作やボール操作を身に付け、それを生かしてゲームを行うことにより、楽しみながら技能の定着を図ることができると思う。

## (2) 生徒の実態について

表1は、単元前の生徒の「体育授業に関する意識調査」の結果である。

表1 体育授業に関する意識調査（平成27年9月15日実施 調査人数34人 男子19人 女子15人）（単位：人）

	項 目	よくあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	ゲームでうまくいかなかったことから、自分の課題（めあて）を見付けていますか。	2	16	5	11	0
2	うまくなるためのポイントを自分で考えていますか。	2	22	0	9	1
3	分からないことやできないことを友達や先生に聞いていますか。	6	15	1	9	3
4	うまくなるためのポイントを友達に伝えていますか。	1	13	2	14	4
5	できなかったことができるようになったことはありますか。	6	22	2	4	0
6	練習したことがゲームの中でできるようになったことがありますか。	4	19	2	9	0
7	運動は楽しいですか。	13	11	0	7	3
8	運動を進んで行ってみたいと思いますか。	9	13	1	9	2
9	学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。	11	12	2	5	4

項目7、8の「運動は楽しいですか」、「運動を進んで行ってみたいと思いますか」の質問に、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答した生徒がそれぞれ10人、11人いる。中学生の時期は、運動に対する苦手意識や煩わしさが出てくる時期でもある。そこで、チームを組織し、一人一人に役割を与えたり、チームごとに練習、試合を行ったりすることで活動意欲を高める必要があると考える。項目3の「分からないことやできないことを友達や先生に聞いていますか」の質問に対して、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した生徒は21人いる。一方、項目4の「うまくなるためのポイントを友達に伝えていますか」の質問に対して、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答した生徒は18人いる。これらの結果から、聞くことができる生徒は少なくないが、伝えることができる生徒は少ないことが分かる。

そこで、集団的活動の場の工夫として、男女で技能差のあるグループを組織して教え合いを促したり、掲示板を作り、質問者と回答者の両者になれる機会を設けたりするなど、双方向の学び合いの場を授業の中に設定する必要があると考える。

## (3) 主題に迫る具体的な手立て

ア 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの作成と活用

基本的なバット操作、ボール操作などの、基礎的な技能を習得し、ゲームの中で活用できるようにするため、中学校における身に付けるべき身体能力を系統的に示した身体能力シート（p. 3）を作成し、それを基に学習活動を行う。

「基本的なバット操作」を身に付けるため、バットの他に、身近な道具である柔道着の帯やタオルを使って練習する。また、基礎技能の定着を図るため、落下傘ボール（ソフトテニスボールを新聞紙で包んでビニールをかぶせたもの）を使って、短時間でバッティングの練習が多くできるようにする。

「ボール操作」の基礎的な技能の習得や、ボールを持たないときに周りを見ながら動く状況判断力を身に付けるため、「ボール鬼ごっこ」や「3人トンネルゴロキャッチ」を行う。ボール等を捕ったり、投げたりする機会を多くし、技能の習得につながるようにする。また、ボールを持たないときの動きについても意識して練習する。

習得した技能をゲームの中で活用できるよう、プレイ上の制限を設けたゲームを行う。生徒の技能の向上に合わせて、正規のルールに近付けていく。

#### イ 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

「基本的なバット操作」を身に付けるため、単元前半と後半の自らのバッティングフォームを学習カードに記入し、改善のポイントを比較できるようにする。

たくさんの人とコミュニケーションが図れるようにするため、双方向型コミュニケーションツールとして、掲示板「uchuuu知恵袋」を利用する。バッティングの仕方やゲームのルールなど、誰でも疑問点などを質問し、回答できるようにする。

### 4 単元の指導計画（7時間扱い）

	時	学習内容・活動	関	思	技	知	観点別評価規準
はじめ	1	1 オリエンテーション ・学習の流れを理解する。 ・学習カードの使い方を知る。 ・チーム分け、役割分担 ・本単元に身に付けたい基本的な力を確認する。 2 「30スイング」を練習する。	①			①	・球技の学習に◎積極的に取り組もうとしている。(関心①) ・球技(ベースボール型)の特性や成り立ちについて、学習した具体例を◎常に挙げている。(知識①)
	なか	2	1 ウォーミングアップ「30スイング」	③			
3		2 集合、整列、あいさつ					・バット操作の技能のポイントを◎的確に見付けている。(思考①)
4		3 本時のめあての確認 4 準備運動「ボール鬼ごっこ」 5 ドリル練習 ・二人キャッチボール		①	①		・正しいグリップでバットを構え、タイミングを合わせて水平に◎安定したスイングができる。(技能①)
4		6 タスクゲーム「3人トンネルゴロキャッチ」 7 後片付け、整理運動、学習の振り返り		②	②		・◎繰り返し正面に動いて捕球したり、ステップを踏んで送球したりできる。(技能②) ・ボール操作の技能のポイントを◎的確に見付けている。(思考②)
まとめ	5	1 ウォーミングアップ「30スイング」	②				・フェアなプレイを◎常に守ろうとしている。(関心②)
	6	2 集合、整列、あいさつ 3 本時のめあての確認 4 準備運動「ボール鬼ごっこ」 5 ドリル練習 ・二人キャッチボール				②	・技術の名称や行い方について、学習した具体例を◎常に挙げている。(知識②)
	6	6 ゲーム		③		③	・ボールを持たないときの動き方のポイントを◎的確に見付けている。(思考③)
	7	7 後片付け、整理運動、学習の振り返り	①			③	・練習方法や試合の仕方について◎常に具体例を挙げている。(知識③) ・球技の学習に◎積極的に取り組もうとしている。(関心①) ・◎繰り返し守備位置に戻り、準備姿勢をとったり、ベースカバの動きをしたりできる。(技能③)

### 5 本時の指導（3/7時間）

#### (1) 目標



- バット操作の技能のポイントを見付けることができる。  
(運動についての思考・判断)
- チームで練習して、正しい構えで水平にスイングすることができる。  
(運動の技能)

(2) 準備・資料

ウレタンバット、ウレタンソフトボール、落下傘ボール、ベース、グラブ、マーカーコーン、タオル及び柔道帯等

(3) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価の観点と方法
はじめ 5分	1 ウォーミングアップを行う。 「30スイング」  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             思：バット操作の技能のポイントを見付けよう。              技：チームで練習して、正しい構えで水平にスイングできるようにしよう。           </div> 2 用具の準備を行う。 3 整列・あいさつ・健康観察をする。 4 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「30スイング」における素振りのポイントを説明し、正しいフォームを身に付けるようにする。</li> <li>・技能差、体力差を意識し、チーム内で教え合うことができるようにする。</li> <li>・バット等用具の安全に気を配らせる。</li> </ul>
なか か 40分	5 準備運動を行う。 「ボール鬼ごっこ」 ・男子5対5、女子4対4で行う。 ・1分で交替 6 基本のドリル練習をする。 「二人キャッチボール」 ・下投げトス、肘上げスロー、ステップスロー、フライを二人合わせて10回ずつ行う。 「落下傘バッティング」 ・落下傘ボールを使ってトスパッティングする。 ・一人3～5本でローテーション ・4、5人で男女混合 7 タスクゲームを行う。 「3人トンネルゴロキャッチ」 ・一人5本でローテーション ・男女別3、4人 8 片付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きの中でボールをトスしたり、キャッチしたりする基本技能を向上させるとともに、ボールを持たないときに周りを見ながら動く状況判断力を高められるように声掛けをする。</li> <li>・巡回指導しながらポイントを声掛けする。 「トスは力を抜いて指を開く」 「肘は肩より高く、トランプをめくるように」 「引いて捕ったらすぐにサイドステップ」 「フライはグラブを額の横で構えて」</li> <li>・ボールは飛びすぎないので強くバットを振るように声掛けをする。トスはコントロールできる生徒が行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             思：バット操作の技能のポイントを見付けている。              技：正しいグリップでバットを構え、タイミングを合わせて水平にスイングしている。              (学習カード・観察)           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内野、外野には、ボールを追いかける動きが身に付けられるようにする。</li> <li>・一緒に練習するメンバーの技能に合わせてボールの角度や速度を変えるように配慮させる。</li> </ul>
まとめ 5分	9 整列・整理運動・健康観察を行う。 10 学習の振り返りをする。 ・学習の振り返りを学習カードに記録し、本時のまとめを行う。 ・「uchuuu知恵袋」を記入する。 11 あいさつを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内の役割を果たすように、声掛けを行う。</li> <li>・次時の内容を伝える。</li> </ul>

6 授業の実際

(1) 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの活用

中学校第2学年において身に付けさせたいバット操作、ボール操作の練習をするため、身体能力を系統的に分類した身体能力シートを活用し、学習活動を行った。

学習内容が明確となっているため、積極的に技能の習得を目指し活動できたと考え  
る。

資料1は、「30スイング」の様子である。バット操作の練習では、バッティングフォームを確立するため、バットの他に柔道着の帯やタオルを使って素振りを行い、遠心力を利用しながらバットのしなりや腰のひねりの感覚をつかむことができた。特に、このような感覚の少ない女子の練習には効果的であったと考える。

また、資料2は、「落下傘ボール」を使ったトスバッティングの様子である。基本的な技能の定着を図ることが目的で、通常のボールと比べ安全性が高く、バットがボールに当たる確率が高くなり、一人当たりのバッティング回数が増え、バット操作の練習には有効であった。

少ない授業回数の中でもできるだけ多くのバッティング回数を確保するように努めたため、初心者、女子において単元前半と後半でバッティングフォームに大きな変化が見られた。

ボール操作の練習では、ボール操作の基本的な技能の習得やボールを持たないときに周りを見ながら動く状況判断力を身に付けるため、「ボール鬼ごっこ」を行った。グラブを使ってソフトボールをパスしながら敵を追いかける練習を行うことで、はじめはどう動けばよいか分からず、その場に止まっていた生徒がいたが、練習を重ねる度に動けるようになった。動きながら近距離でのトスやキャッチをするので、ボールコントロールやグラブコントロールの向上にも役立った。ボールを持たない鬼役の生徒が、敵を見つけて走り寄り、ボールを呼ぶ動きが増え、ボールを持たないときに周りを見ながら動く状況判断力にもつながったと考える。

資料3は「3人トンネルゴロキャッチ」の様子である。ボールを持たないときの動きを意識的に身に付けるため、3人で役割分担をしながら、ゴロを捕る練習を行った。ボールが投げられた瞬間、守備の一人が動きながらボールに対して正面を向き、足の間にボールを通らせ、その後ろでもう一人が正面でボールを捕球する。捕球後はなるべく素早く最初に投げ出した生徒に返球するようにしたため、ボールを持たないときの動きを意識的に身に付けることができたと考える。

まとめで行ったゲームでは、バッターが打ちやすいボールとなるために、ピッチャーは味方が行い、一塁手はグラブに当てられたらアウト、女子の外野手は、ボールがゴロでもキャッチできたらアウトなどのルールを設け、習得した技能を生かせ

資料1 「30スイング」の様子



資料2 「落下傘ボール」を使ったトスバッティングの様子



資料3 「3人トンネルゴロキャッチ」の様子

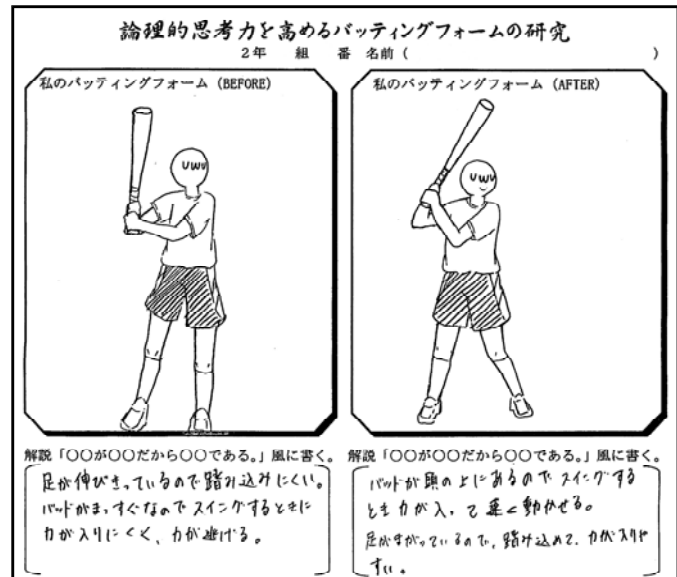


るようにした。生徒の技能の向上に合わせて、徐々に正規のルールに近付けていくようにした。

## (2) 論理的思考力、コミュニケーション能力を活用し身体能力を高める学習活動

資料4は、生徒が書いた「学習カード」である。基本的なバット操作を身に付けるため、毎時間授業の中で友達とバット操作のポイントを確認し合いながら練習を行った。自分のバッティングフォームのポイントを、学習カードに絵や文章で記入することで、改善点を論理的に捉えることができ、実際のバッティングフォームにも変化が見られた。

資料4 「学習カード」

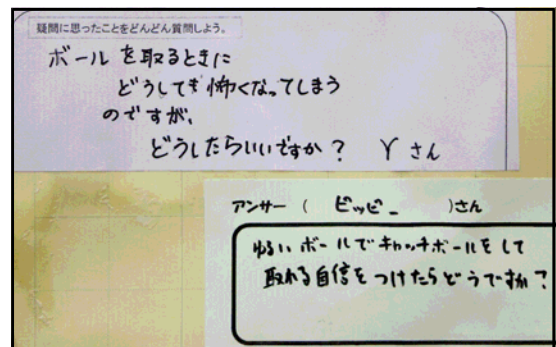


資料5は「uchuuu知恵袋」である。たくさんの人とコミュニケーションが図れるようにするため、双方向型コミュニケーションツールとして、

掲示板「uchuuu知恵袋」を利用した。生徒が自由に書き込みができるように、廊下や昇降口にボードを設置した。ベースボール型の運動に、苦手意識をもつ生徒や向上心のある生徒から多くの質問が集まり、意見のやり取りが活発に行われた。質問内容では、第1時、第2時は「どうしたらボールにバットが当たるか」が多かったが、第5時、第6時には「もっと遠くに

飛ばすにはどうすればいいか」と内容に変化が見られた。多くの生徒は、「バットに当たる」から、「遠くへ飛ばす」と目的意識が変わり、基本的な技能の定着を図ることができたと考える。

資料5 uchuuu知恵袋



事前の意識調査では、授業の中で、うまくなるためのポイントを友達に伝えていないという生徒の意識が明らかとなったが、今回、掲示板というコミュニケーションツールを通して、自分のもっている知識を友達に伝えることで身体能力を高めることができたと思われる。

## (3) 生徒の変容について

ア 事前、事後の生徒の「体育授業に関する意識調査」より

図1 (p. 18) は、事前、事後の生徒の「体育授業に関する意識調査」の結果である。表1 (p. 13) で示した9つの質問を、「論理的思考力」、「コミュニケーション」、「技能」、「意欲」、「卒業後の意欲」の5つの項目に分け、単元前と単元後で比較した。その結果、「よくあてはまる」、「あてはまる」の合計値がすべての項目において単元前よりも単元後に増加した。バッティング練習を多

く取り入れたことで、技能の習得に苦手意識をもっていた生徒たちが、ボールにバットが当たるようになったと実感でき、「技能」項目の向上につながったと考える。

さらに、グループ中心に学習活動を行い、「uchuuu知恵袋」を活用し、双方向のコミュニケーションが促進されたことで、「コミュニケーション」項目が上がったと考える。

基礎技能の定着を図るための練習やコミュニケーションツールを活用するなどの手立てを講じたことにより、毎時間授業開始前から校庭に集合し、素振りやキャッチボールを楽しんで行う生徒の姿が見られるようになった。

#### イ 形成的授業評価より

高橋建夫が提唱している「形成的授業評価」の手法を用いて授業を分析した。図2はその結果である。グラフは、すべての項目で似たような推移を示した。第1時から第2時の大きな伸びは、オリエンテーションから実際に運動が始まって期待感が高まったことによるものと考えられる。

技能練習では、系統的に身体能力を明確にした学習活動を工夫することで、生徒は、自分の課題解決に迫ることができ、徐々に技能が上がってきたことを実感していることがうかがえる。しかし、単元後半で値が伸びなかったのは、実際のゲームで、習得した技能が思うように発揮できなかったからではないかと考える。

また、ゲームではプレイ上の制限や新しいルールに対応しなければならないため、全体的に数値が横ばい状態であったと考える。

以上のことから、身に付けさせたい具体的な技能の習得や、論理的思考力とコミュニケーション能力を活用して、身体能力の向上が図られたと考える。

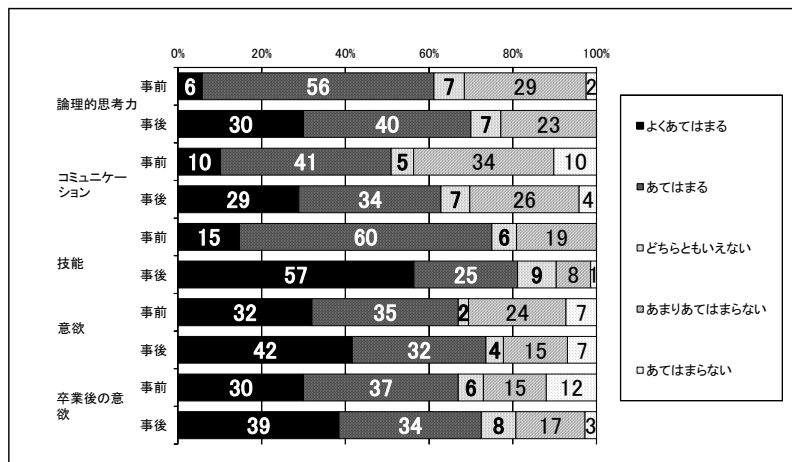


図1 事前,事後の「生徒の体育授業に関する意識調査」(事前:平成27年9月15日実施 調査人数34人 男子19人 女子15人, 事後:平成27年10月8日実施 調査人数36人 男子19人 女子17人)

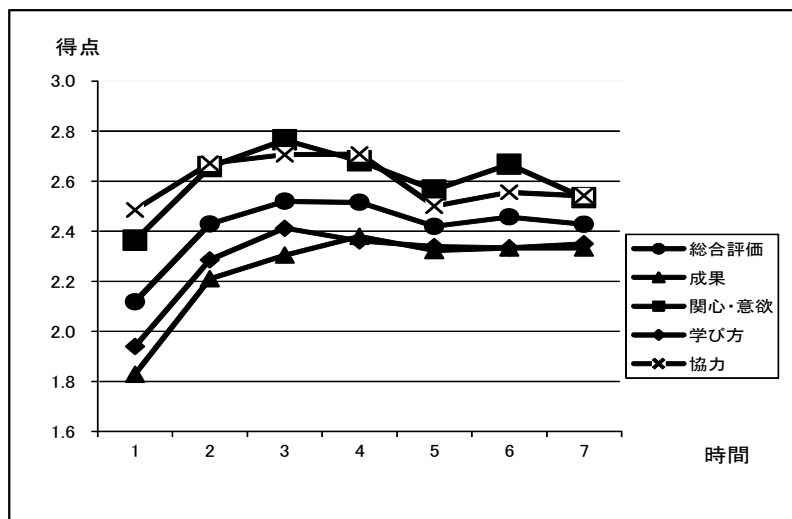


図2 形成的授業評価の推移(平成27年9月15日から10月8日実施 調査人数36人男子19人女子17人)

## 7 成果と課題

### (1) 成果

身体能力を系統的に整理した，身体能力シートを基に学習活動を行ったことで，基礎的な技能と知識の習得を図ることができた。

学習カードを活用し，自分のバッティングフォームを絵や文章で表すことで，改善点を論理的に捉えることができた。また，コミュニケーションツールとして「uchuuu知恵袋」を使ったことで，「分からないことを質問する」側と，「分かっているのだから，ポイントを友達に伝える」側の双方向のコミュニケーションを図ることができ，身体能力を高めることにつながったと考える。

これらの活動から，生徒が自らの成長を実感し，意欲的に運動に取り組むようになり，運動を継続していく意識の高まりにつながったと考える。

### (2) 課題

教え合い，学び合いの観点から男女混合で授業を行ったが，技能差や体力差はかなり大きく，特にゲームでは十分な配慮が必要であると感じた。また，習得した技能が思うようにゲームで発揮できていないと感じた。今後，技能差や体力差を埋めるための手立てやゲームを想定した技能練習などを更に工夫していく必要がある。

【授業研究 3】

高等学校第3学年「球技（ベースボール型）」における豊かなスポーツライフのための基礎的な力を育てる保健体育科授業づくり

1 単元名 球技「ベースボール型」

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元目標

- 基本的なバット操作（打）とボール操作（捕・投），定位置での守備などによって攻防を展開することができるようにする。（技能）
- 球技に積極的に取り組んだり，フェアプレイを守ろうとしたり，分担した役割を果たそうとしたりすることができるようにする。（態度）
- バット操作，ボール操作，ボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるために，運動の行い方のポイントを見付けることができるようにする。（知識，思考・判断）

(2) 観点別評価規準（学習活動に即した評価規準）◎は十分に満足できる状況

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①球技の学習に◎ <b>主体的</b> に取り組もうとしている。 ②フェアなプレイを◎ <b>常に</b> 守ろうとしている。 ③◎ <b>自ら進んで</b> 分担した役割を果たそうとしている。	①バット・ボール操作の技術のポイントを◎ <b>的確</b> に見付けている。 ②ボールを持たないときの動き方のポイントを◎ <b>的確</b> に見付けている。 ③友達や教師と◎ <b>積極的に</b> 話し合っ、正しい技能を身に付けている。	①正しいグリップでバットを構え，タイミングを合わせて◎ <b>安定して</b> 左右に打ち分けができる。 ②◎ <b>繰り返し</b> 正面に動いて捕球したり，ステップを踏んで送球したりできる。 ③◎ <b>繰り返し</b> 守備位置に戻り準備姿勢をとったり，ベースカバーの動きをしたりできる。	①球技（ベースボール型）の特性や成り立ちについて，学習した具体例を◎ <b>常に</b> 挙げている。 ②技術の名称や行い方について，学習した具体例を◎ <b>常に</b> 挙げている。 ③練習方法や試合の仕方について具体例を◎ <b>多く</b> 挙げている。

3 単元の指導について

(1) 教材について

ベースボール型の球技は，身体やバットの操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し，一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。高等学校第3学年では，状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することをねらいとしている。本単元では前半は基本的な技能の向上をねらい、

後半は身に付けた技能をゲームで生かせるように計画した。

## (2) 生徒の実態について

表1は、単元前の生徒の「体育授業に関する意識調査」の結果である。

表1 体育授業に関する意識調査結果（平成27年9月15日実施 調査人数 男子28人，平成27年10月8日実施 調査人数 女子43人 合計71人）（単位：人）

	項 目	よくあ はまる	あては まる	どちら ともい えない	あまりあ てはまら ない	あては まらない
1	ゲームでうまくいかなかったことから、自分の課題（めあて）を見付けていますか。	15	37	3	16	0
2	うまくなるためのポイントを自分で考えていますか。	23	34	3	11	0
3	分からないことやできないことを友達や先生に聞いていますか。	18	39	0	10	4
4	上手くなるためのポイントを友達に伝えていますか。	7	26	1	23	14
5	できなかったことができるようになったことはありますか。	25	41	0	5	0
6	練習したことがゲームの中でできるようになったことがありますか。	22	36	0	12	1
7	運動は楽しいですか。	40	25	0	5	1
8	運動を進んで行ってみたいと思いますか。	33	28	1	4	5
9	学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。	35	21	5	7	3

項目7、8の「運動は楽しいですか。」「運動を進んで行ってみたいと思いますか。」の質問に、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した生徒はそれぞれ65人、61人と、運動に対する意欲が高いことが分かる。また、項目4の「上手くなるためのポイントを友達に伝えていますか。」の質問に対して、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答している生徒は37人いる。このことから、友達とコミュニケーションをとって授業中に教え合う雰囲気あまり作られていないことがうかがえる。

## (3) 主題に迫るための手立て

ア 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの作成と活用

「状況に応じたバット操作」、「走塁」、「安定したボール操作」、「状況に応じた守備」の動きなど、基本的な技能を習得し、ゲームの中で活用できるようにするため、高等学校における身に付けるべき身体能力を系統的に示した身体能力シート（p. 3）を作成し、それを基に学習活動を行う。

バット操作における基本的な技能の向上を図るため、生徒が作製した落下傘ボールを使い、トスバッティング形式で練習を行う。連続して数多くの打撃練習や左右の打ち分けの練習をする。また、守備者も打球に数多く触れ、瞬時に判断して捕球・送球する。

ボール操作の基本的な技能の習得や状況判断力の向上を図るため、準備運動で「ボール鬼ごっこ」を行う。同じチーム内を2グループに分け、鬼役の生徒と逃げる生徒で役割を分担し、グラブを付けた鬼役の生徒は、ボールをトスしたり投げたりしながら逃げる生徒にタッチをする。その際、ボールを持っている生徒は動くことができないように制限する。

ボールを持たないときの動きにおける状況に応じた守備の向上を図るため、フイールドイングの練習として「3人トンネルゴロキャッチ」を行う。3人組を作

り、一列に並ぶ。端の一人が少し左右に強いゴロを投げ、真ん中の生徒は素早く動いて足の上にボールを通らせ、端のもう一人の生徒が真ん中の生徒の後ろに移動し、正面で捕球する。捕球後はなるべく素早く最初に投げ出した生徒に返球する。練習により、捕球が安定してきたら、次は捕球者が捕球後、他の2人のどちらかが声を掛けて、どちらに返球するかを瞬時に判断させ、指示を出した生徒に素早く返球することを目標とする。

ゲームは、ランナーが一塁にいる状態で開始し、状況判断して送球できるように設定する。また、1チームの守備人数は7人とし、必ず守備に空いているところがあるので、攻撃側も守備側も考えて攻守を行う場面ができるように設定した。

#### イ 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

生徒同士のコミュニケーションが図れるようにするため、タブレット端末を各チームで1台活用し、練習とゲーム時に味方のバッティングや守備を撮影し、バッティングフォームや守備時の姿勢などを教え合えるようにする。このことにより、生徒は自らの改善点を論理的に捉え、課題解決ができるようになると思う。

### 4 単元の指導計画（8時間扱い）

時	学習内容・活動	関	思	技	知	観点別評価規準
はじめ	1 オリエンテーション ・学習の流れを理解する。 ・チーム分け、役割分担をする。 ・本単元で身に付けたい基本的な力を確認する。	①			①	①球技の学習に <u>主体的</u> に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	2 内容の確認 ・鬼ごっこのルール確認をする。 ・落下傘ボール作製と落下傘バッティングのめあてを確認する。 ・タブレット端末の操作方法を確認する。 ・事前意識調査を実施する。					①球技(ベースボール型)の特性や成り立ちについて、学習した具体例を <u>常に</u> 挙げている。(知識・理解)
	2 3 簡易ゲーム・試しのゲーム	②				②フェアなプレイを <u>常に</u> 守ろうとしている。 (関心・意欲・態度)
なか①	3 本時 1 キャッチボール(肩慣らし) 2 集合、整列、あいさつ 3 本時のめあての確認 4 準備運動「ボール鬼ごっこ」 5 ドリル練習 ・「二人キャッチボール」を行う。 ①30秒間行う。 ②いろいろな投げ方で行う(下トス・ステップスロー・フライ・バウンド) ・「落下傘バッティング」を行う。 ① フォームを意識して、数多く打ち、遠くに飛ばすことを心がける。 ② 左右に打ち分ける。	③	②	②		②ボールを持たないときの動き方のポイント <u>を</u> <u>的確</u> に見付けている。 (思考・判断)
	4 6 フィールディング練習 ・「3人トンネルゴロキャッチ」を行う。 7 ゲームⅠ ・ピッチャーは味方が行う。 ・一塁ランナーがいる状態から攻撃を始める。 8 後片付け、整理運動、学習の評価					② <u>繰り返し</u> 正面に動いて捕球したり、ステップを踏んで送球したりできる。 (運動の技能)
なか②	5 1 キャッチボール(肩慣らし) 2 集合、整列、あいさつ 3 本時のめあての確認 4 準備運動「ボール鬼ごっこ」 5 ドリル練習 ・二人キャッチボールを行う。 ① 30秒+ベースを踏んで行う。					③ <u>自ら進んで</u> 分担した役割を果たそうとしている。 (関心・意欲・態度) ①バット・ボール操作の技術のポイントを <u>的確</u> に見付けている。(思考・判断)
						②ボールを持たないときの動き方のポイント <u>を</u> <u>的確</u> に見付けている。 (思考・判断) ③友達や教師と <u>積極的に</u> 話し合っ、正しい技能を身



	② 4人組で下トス→ステップスロー→バウンドスロー→下トスを繰り返す。 6 「フィールドイングノック」 ・一人が4本連続で打ち、守備4人が連続して返球を成功させる。(トッサーに返球) 7 ゲームⅠ ・ピッチャーは相手チームが行う。 ・一塁ランナーがいる状態から攻撃を始める。 ・守備が2か所抜けた状態で行う。 8 後片付け、整理運動、学習の評価	②	③	①	に付けている。 (思考・判断) ①正しいグリップでバットを構え、タイミングを合わせて◎安定して左右に打ち分けができる。 (運動の技能)	
まとめ	6 1 キャッチボール 7 2 集合、整列、あいさつ 8 3 本時のめあての確認 4 準備運動 5 チームごとのフリー練習 (今までの練習を行う) 6 ゲームⅡ (リーグ戦) (3チームと対戦) 7 後片付け、整理運動、学習の振り返り 事後アンケートの実施			②	②	②◎繰り返し正面に動いて捕球したり、ステップを踏んで送球したりできる。 (運動の技能) ②技術の名称や行い方について、学習した具体例を◎常に挙げている。 (知識・理解)
				③	③	③◎繰り返し守備位置に戻り準備姿勢をとったり、ベースカバーの動きをしたりできる。 (運動の技能) ③練習方法や試合の仕方について具体例を◎常に挙げている。 (知識・理解)
			①			①球技の学習に◎主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)

## 5 本時の指導 (3 / 8 時間)

### (1) 目標

- ◎ ボールの動きを予測して動き、体の正面で捕球できるよう構え、ボールを捕球したり、ステップを踏んで送球したりすることができる。(運動の技能)
- ボールを持たないときの動き方のポイントを見付けることができる。  
(思考・判断)

### (2) 準備・資料

落下傘ボール、ベース、グローブ、バット、マーカーコーン、ストップウォッチ、タブレット端末

### (3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点・評価の観点と方法
はじめ	1 準備運動を行う。 2 用具の準備を行う。 3 整列・あいさつ・健康観察をする。 4 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能差を埋めるよう、チームで互いに技能のポイントを教え合うようにすることを説明する。</li> <li>・バット等使用時の安全に気を配らせる。</li> </ul>
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             技：体の正面で捕球したり、ステップを踏んで送球できるようにしよう。              思：動き方のポイントを見付けよう。           </div>	
なか	5 準備運動「ボール鬼ごっこ」を行う。(6分) ・4対3、先攻後攻を決め、鬼役のチームはソフトボールをパスしながら敵を追いかける。ボールを持っている鬼だけがタッチできる。ボールを持ったら歩けない。30秒で交替。 6 フィールドイング練習 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きの中でボールをトスしたり、キャッチしたりする基本技能を向上させるとともに、周りを見て状況判断力を高められるように声掛けをする。</li> <li>・ボールの動きを予測して追いかけて正面で捕球</li> </ul>

	<p>「3人トンネルゴロキャッチ」</p> <p>①縦に3人並び、Aがゴロのボールを投げる。          ②Bはボールを追いかけて、わざとトンネルする。          ③CはBがトンネルしたボールをカバーし、キャッチしてAに投げる。          ④Aはベース上に移動してボールを受ける。          ⑤Aはゴロのボールを左右に振り分けて投げる。          ここでチームごとに分かれる。</p> <p>7 基本のドリル練習をする。(6分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打つ=落下傘バッティング</li> </ul> <p>新聞紙を4枚丸めてビニール袋で包んだものをトスしてバッティング 一人8本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真ん中に当たるようにして遠くに飛ばす。</li> </ul> <p>8 簡易ゲーム (18分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランナー一塁からスタートする。</li> <li>・ピッチャーは味方が行う。</li> <li>・バッティングと守備を撮影する。</li> </ul>	<p>する動きを身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に練習するメンバーの技能に合わせて、ボールの角度や速度を変えるように助言する。</li> <li>・チーム内の役割を果たしているか、声掛けを行う。</li> <li>・ボールは飛びすぎないので強くバットを振るように声掛けをする。トスはコントロールできる人が行う。</li> <li>・足・腰を回転してから、バットが出る感覚をつかませる。</li> <li>・空いているところを狙って打つ、ランナーの位置を確認して打つなど状況判断ができるよう、アドバイスする。</li> <li>・自分のフォームを確認して次に生かすなど、待っている間に自分のできることを積極的に行わせる。</li> </ul>
まとめ 5分	<p>9 整列、整理運動、健康観察を行う。</p> <p>10 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りを学習カードに記録する。</li> </ul> <p>11 あいさつを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内の役割を果たしているか、声掛けを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>技：体の正面で補球したり、ステップを踏んで送球している。          思：動き方のポイントを見つけている。          (学習カード・観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時への内容を伝える。</li> <li>・落下傘バッティングで左右の打ち分けができるようにする。</li> </ul>

## 6 授業の実際

### (1) 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの作成と活用

高等学校第3学年において身に付けさせたいバット操作、ボール操作の練習をするため、身体能力を系統的に分類した身体能力シートを基に、学習活動を行った。身体能力シートを作成したことにより、学習内容が明確になり、系統的な学習指導を行うことができ、技能の習得が十分に図れたと考える。

資料1は、バット操作における基本的な技能の向上を図るため、生徒が作製した落下傘ボールである。この落下傘ボールを使って、資料2のようにトスバッティングの練習を行った。落下傘ボールは、通常のボールに比べ、空気の抵抗を受けるため、スピードがゆっくりになり、運動の苦手な生徒でも打つことができた。同様の理由から、守備においても捕球しやすかった。

資料3 (p.25) は、「ボール鬼ごっこ」の様子である。ボール操作の基本的な技能の習得や状況判断力の向上を図るため、準備運動で「ボール鬼ごっこ」を行った。鬼役の生徒はグラブを付け、ボールをトスしたり投げたりしながら逃げる人にタッチするなど、投げる動作と周りを見ながら状況判断

資料1 落下傘ボール



資料2 落下傘を使ったバッティング練習



をする動きを組み合わせることで、基本的な技能の習得や状況判断力を身に付けるために有効であったと考える。

ボールを持たないときの動きの状況に応じた守備の向上を図るため、フィールドイング練習として「3人トンネルゴロキャッチ」を行った。ボールの動きを予測して動く、捕球後すぐに返球する、返球場所を瞬時に判断することで、捕球動作とともに、投球動作や判断力の向上に役立った。特に、ゴロをキャッチし返球する技能の向上に役立ったと答える生徒が多かった。

資料3 ボール鬼ごっこの様子



## (2) 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

生徒同士のコミュニケーションを図れるようにするため、タブレット端末を各チームで一台活用して練習とゲーム時に味方のバッティングと守備を撮影し、バッティングフォームや守備時の姿勢などを教え合える環境を設定した。それにより、生徒が自分の動きやフォームを客観的に捉えることができ、次のプレーに生かそうとする姿が見られるようになった。

以上の活動を通して、生徒が互いに自分の得意とする攻撃や守備を練習し技能について話し合い、評価し合う姿が随所に見られるようになった。また、守備における連携プレーを通して状況に応じた守備の技能を身に付け、それらをゲームで成功させる喜びを味わおうと積極的に運動に取り組んだことが、身体能力を高めることにつながったと考える。

## (3) 生徒の変容について

ア 事前、事後の生徒の

「体育授業に関する意識調査」より

図1は、事前、事後の生徒の「体育授業に関する意識調査」の結果である。事後の論理的思考力、コミュニケーションの値が上がったことから、タブレット端末を活用し、分からないことやできないことを友達や教師と話し合い、ポイントを友達に伝えることで、技能を高めようとする雰囲気を作ることができたかが分かる。しかし、あまり技能の低い生徒は、友達からポイントを言われても理解することができず、困ってしまう場面も見られ、友達同士の助言の仕方に工夫が必要であると考えられる。

イ 形成的授業評価より

図2は、体育授業評価として定着している高橋健夫作成「形成的授業評価」に

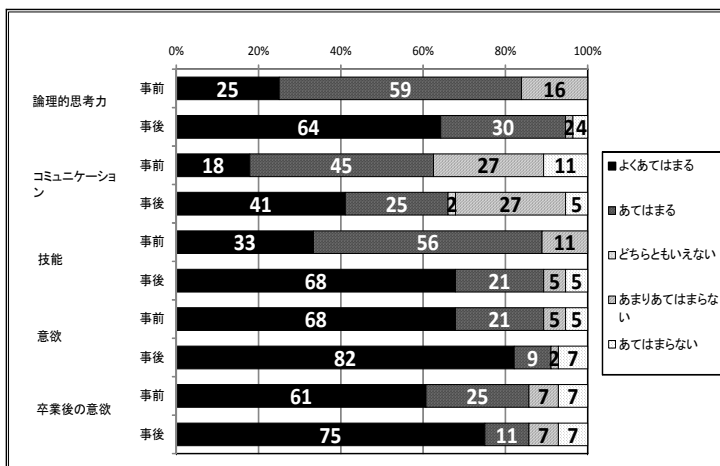


図1 事前、事後の「体育授業に関する意識調査」(事前：平成27年9月13日実施 調査人数男子28人 平成27年10月8日実施調査人数女子43人、事後：平成27年10月15日実施 調査人数 男子28人 平成27年11月14日実施 調査人数女子43人)

における男子授業の評価の推移である。「関心・意欲」の項目で、授業研究を実施した当初から値が高く最後まで高い状態を維持し、さらに向上させて単元を終えることができた。第4、5時では、フィールドイングの練習や連携したプレーを目的とした技能レベルの高い内容を入れ、学習難易度が増したため、「成果」や「学び方」の値が低くなったと考える。

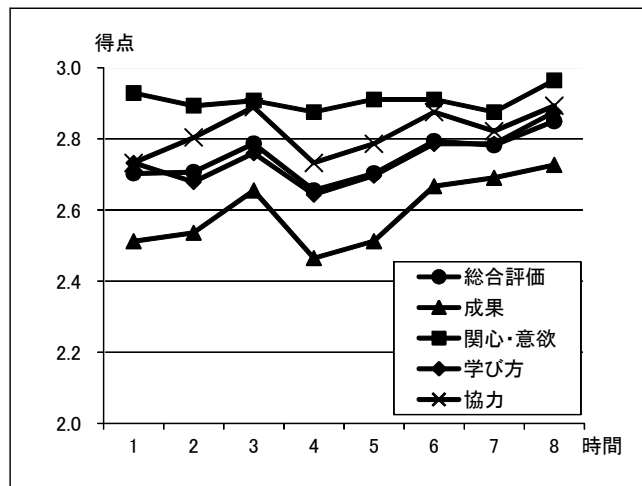


図2 形成的授業評価の推移 (平成27年9月13日から10月15日 実施 調査人数 男子28人)

図3は「形成的授業評価」における女子授業の評価の推移である。「協力」以外の項目については、最初は男子より低い値を示していたが、授業が進むにつれ、技能が身に付き、値の向上が見られた。「成果」については、ゲーム中にルールについて分からない場面が増え、ゲームを中断してルールを確認しながら進めていくことが多くあり、低い値を示したが、授業が進むにつれ高い値となっている。

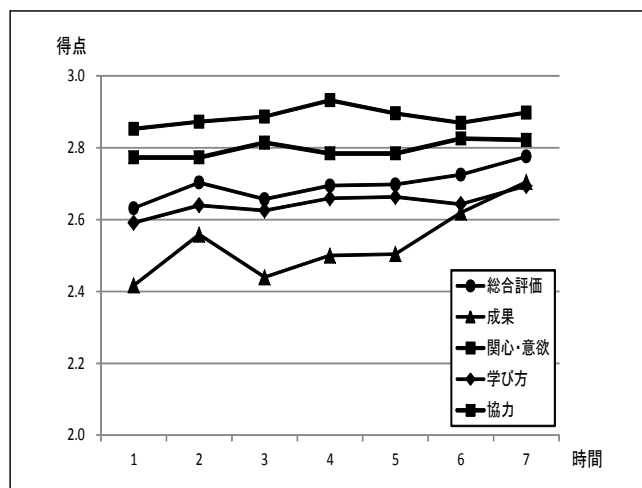


図3 形成的授業評価の推移 (平成27年10月8日から11月14日 実施 調査人数 女子43人)

男子、女子の「形成的授業評価」は概ね向上しており、このことから、身に付けさせたい具体的な技能の習得や、論理的思考力とコミュニケーション能力を活用して、身体能力の向上が図られたと考える。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

身体能力シートを基に、基本的な力を育てるための学習活動を行うことで、生徒は学習内容が明確になり、自らの課題解決に向け積極的に活動し、基本的な技能の習得を図ることができた。

高等学校の段階では、「生涯スポーツにつながる意識をもつ」というねらいがある。生徒への事前、事後の体育授業に関する意識調査から、今回の研究授業を通して「運動を進んで行ってみたい」、「学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたい」と思う生徒が増加したことが分かる。男子の授業では、授業の後半に行ったリーグ戦においても、自分たちで考えて簡単な動きから練習を始め、最後は連携プレーで終わりにしてゲームを始める、技能の高い生徒がそうでない生徒にマンツーマンで教えるなどそれぞれが目的をもって練習を進め、ゲームに

つなげることができた。女子の授業では、授業が進むにつれ、打球が鋭く飛ぶようになる、フライを捕球できるようになるなど、技能が高まり練習やゲーム時に生かせるようになったため、関心・意欲が高まって単元の最後まで意欲の高い状態が継続できたと考える。

## (2) 課題

学習意欲が低く、運動が苦手な生徒にとっては、連携プレーやタスクゲームなど瞬時に判断して動く内容が難しく、友達と協力して活動ができなかったり、アドバイスをされてもできなくて表情が曇ってしまったりする場面も見られた。後半実施した「形成的授業評価」からも体育の授業に関して意欲が低いことが感じられ、授業における工夫が必要である。

また、タブレット端末を活用して打撃や守備のフォームを撮影して自分の姿を客観的に捉え、次の機会に修正することは非常に有効であった。しかし、ゲームの中では、打った後に塁に出てしまい、すぐに動きを確認できないままになってしまうことや、動きを確認しようとしたときに攻守の交代になってしまうなどがあり、どのようにフィードバックしていくかが今後の課題である。

### Ⅲ 研究のまとめ

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成するために、基礎的な力を育てる体育・保健体育科授業づくりについて授業研究を行い、次のような成果が見られた。

#### (1) 成果

ア 身体能力を系統的に整理し、具体的に示した身体能力シートの活用

小学校、中学校、高等学校における身に付けるべき身体能力を系統的に示した身体能力シートを基に、バット操作やボール操作を練習し、それをゲームの中で活用する系統的な学習活動を行うことで、身に付けさせたい具体的な技能の習得につながった。

- ・小学校では、用具の工夫や「ビブス鬼ごっこ」、「3人トンネルゴロキャッチ」により、「打つ」、「捕る」、「投げる」の動きを身に付けることができた。
- ・中学校では、「30スイング」や「落下傘ボール」によるトスバッティングによりバット操作を習得させることができた。また、「ボール鬼ごっこ」や「3人トンネルゴロキャッチ」により、ボールを持っていないときの動きとして打球の正面に入る動きやベースカバーの動きを意識的に行えることができるようになった。
- ・高等学校では、中学校の学習内容を発展させることで、生徒が互いに自分の得意とする攻撃や守備を練習し、守備における連携プレーを通して高度な技能を身に付け、積極的にゲームの中で生かすことができるようになった。

イ 論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する学習活動

系統的な学習活動の中で、バット操作、ボール操作に関する課題を児童生徒が自ら解決するために、論理的思考力とコミュニケーション能力を活用する工夫を行ったことで、身体能力の向上につながった。

- ・小学校では、ポイントが確認できる資料の提示の工夫やICTを活用することで、互いの動きを見合ったり、動きのポイントを教え合うことで、打つことができる児童が増えた。
- ・中学校では、学習カードとコミュニケーションツールの工夫により、運動技能のポイントを理解し、伝え合うことができるようになり、実際のバッティングフォームに変化が見られるなど技能の向上につながった。
- ・高等学校では、ICTを活用し、互いに技能を分析することで、練習やゲームの中で、積極的に課題の解決に取り組んでいた。

以上のことから、小学校、中学校、高等学校における基礎的な力を高める系統的な学習活動の工夫を行うことで、基礎的・基本的な技能や知識の習得につながり、卒業後に運動を継続する意欲を高めることができたと考えられる。

#### (2) 課題

球技「ベースボール型」の授業では、他の球技と比べると、身体能力の向上やルールも複雑なため理解に時間がかかる。更に、正式なルールでのゲームになるほど、瞬間的に判断して技能を発揮することが難しくなる。

今後は、このような点について検討し、更に系統的な学習過程や学習活動になるよう研究を深めていきたい。

また、生涯にわたって運動を継続する意欲を高めることについて他の単元においても研究を進めていきたい。

<引用文献>

- 文部科学省 「小学校学習指導要領」 平成20年3月  
文部科学省 「中学校学習指導要領」 平成20年3月  
文部科学省 「高等学校学習指導要領」 平成21年3月

<参考文献>

- 高橋建夫編著 「体育科教育学入門」大修館書店 平成14年4月

関係者一覧

1 研究協力員

つくば市立上郷小学校	教諭	山田	智久
水戸市立内原中学校	教諭	三浦	廣幸
県立牛久高等学校	教諭	本田	歩

2 茨城県教育研修センター

所長	石崎	千恵子
教科教育課長	金子	敏久
指導主事	栗山	貴浩
指導主事	小坪	正代